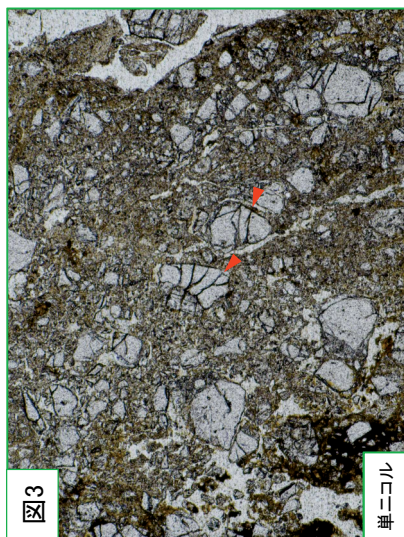
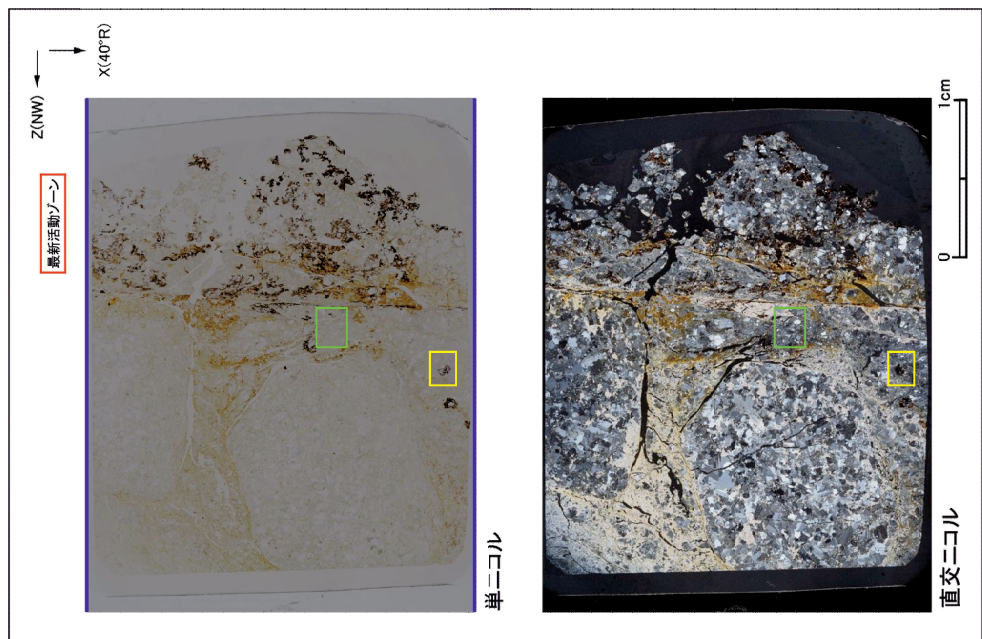
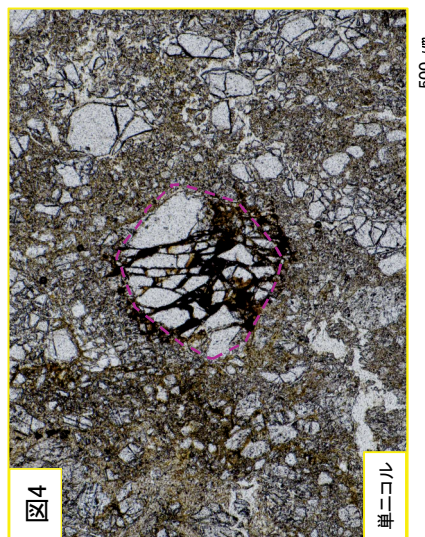
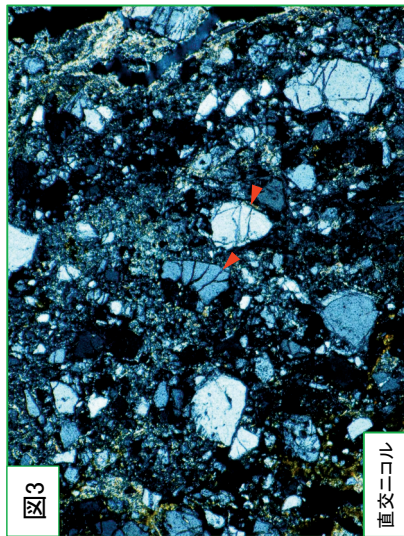


・最新活動ゾーンに取り込まれている岩片には、以下の特徴が認められる。

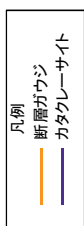
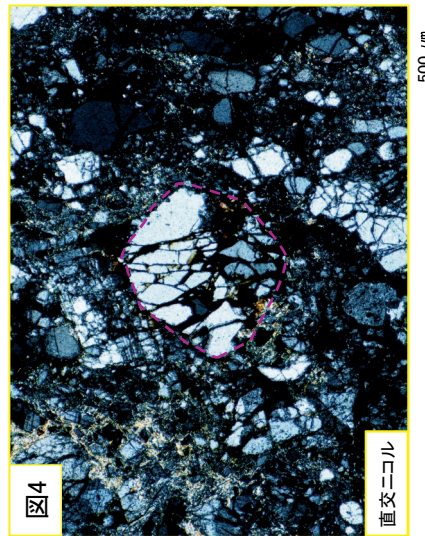
- 岩片に粒界を横断する破断面が認められる。(図3)
- ジグソー状の角礫群が認められる。(図4)



赤三角は粒界を横断する破断面を示す



破線はジグソー状の角礫群の範囲を示す



第7.4.4.375図 (5)

破碎部性状 H31-R-1 深度84.89~85.12m (変位センス, 薄片観察による断層岩区分(3/3))

(肉眼観察結果 深度84.97m)

- 深度84.89～84.97mの「粘土・砂質角礫状」と記載の箇所については、軟質であるが、含まれる細粒部は網目状に分布し、連続性及び直線性に乏しく、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織も認められる。これらのことから変質したカタクレーサーサイトであると判断した。

(観察位置)

- 薄片試料は、肉眼観察により認定した断層面 β に沿って最も細粒化した部分を含み、人為的な試料の乱れの無い部分で作製した。

※断層面 β は最新活動面

(薄片観察結果)

- 薄片観察では、以下の通り断層ガウジの特徴が認められなかった。
 - 基質は粘土鉱物を主体とするが、断層面に沿った粘土状部の分布は局所的で、組織は漸移的である。
- 薄片観察では、以下の通りカタクレーサーサイトの特徴が認められた。
 - 粘土状部の分布は局所的である。
 - 粘土鉱物の分布は漸移的である。
 - 角ばっている岩片が多い。
 - 岩片に粒界を横断する破断面が認められる。
 - ジグソー状の角礫群が認められる。

以上より、薄片観察結果では、最新活動ゾーンの細粒部をカタクレーサーサイトであると判断した。



(総合評価)

当該破砕部については、以下の理由から変質したカタクレーサーサイトであると評価した。

- 肉眼観察で確認された「粘土・砂質角礫状」と記載の箇所の箇所については、その特徴から変質したカタクレーサーサイトであると判断した。
- 薄片観察で確認された最新活動ゾーンの細粒部は、その特徴からカタクレーサーサイトであると判断した。

断層ガウジ・ 断層角礫の有無	断層ガウジ・ 断層角礫の幅[cm] *	明瞭なせん断構造・ 変形構造 *
無	-	-

*：断層岩区分の総合評価で断層ガウジ・断層角礫の有無が「有」の場合は肉眼観察結果を記載。
断層岩区分の総合評価で断層ガウジ・断層角礫の有無が「無」の場合は「-」と記載して括弧内に肉眼観察結果を記載。

・深度86.18～86.21mの「明赤灰色粘土状」と記載の箇所については、軟質で、細粒部の連続性及び直線性が良く、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織も認められない。これらのことから断層ガウジであると判断した。

・深度86.21～86.23mの「粘土混じり礫状」と記載の箇所については、やや軟質であるが、含まれる細粒部は網目状に分布し、連続性及び直線性に乏しく、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織も認められる。これらのことから変質した力タクレーサイトであると判断した。

ボーリング柱状図

- 86.18～86.23m：破砕部
- 86.18～86.21m：明赤灰色粘土状部 (Hc-1)。上端63°で波打つ、下端67°で直線的。軟質。幅8mm。
- 86.21～86.23m：粘土混じり礫状部 (Hj)。下端は不明瞭。やや軟質。灰白色粘土が網目状に分布する。にぶい黄橙色を呈する。

コア写真



灰白色粘土が網目状に分布する



青砕部拡大

連続性・直線性が良い明赤灰色粘土

第7.4.4.376図 (1) 破砕部性状 H31-R-1 深度86.18～86.23m (肉眼観察による断層岩区分)

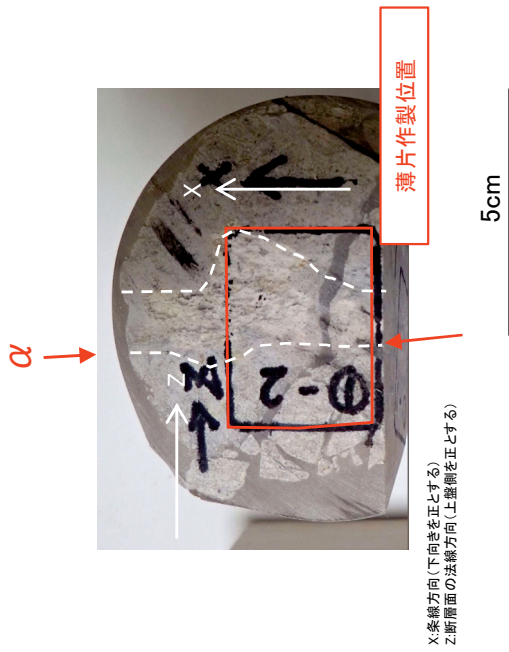
・薄片は断層面 α 及び細粒化が進んだ範囲を含むように作製した。

※断層面 α は最新活動面

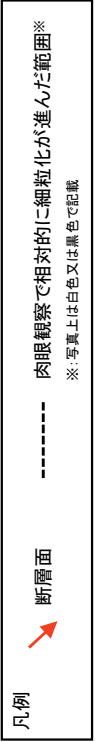
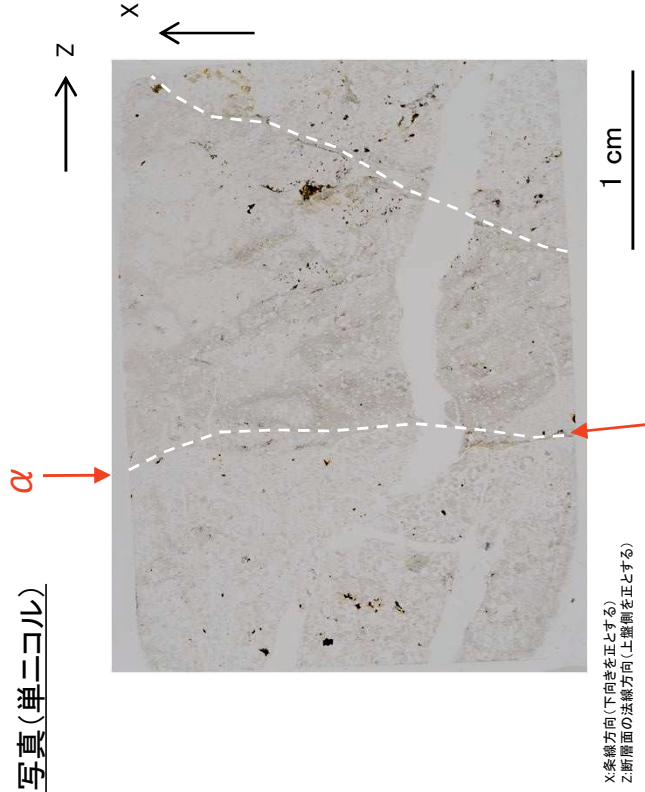
コア写真



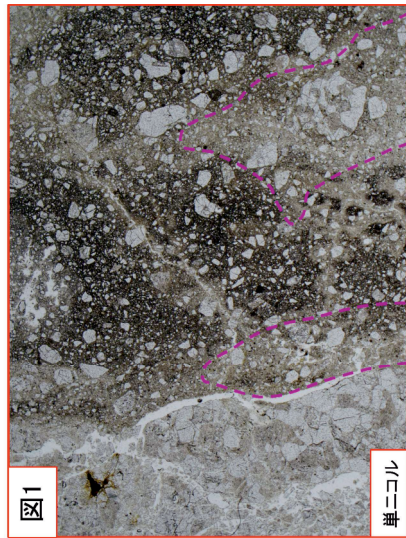
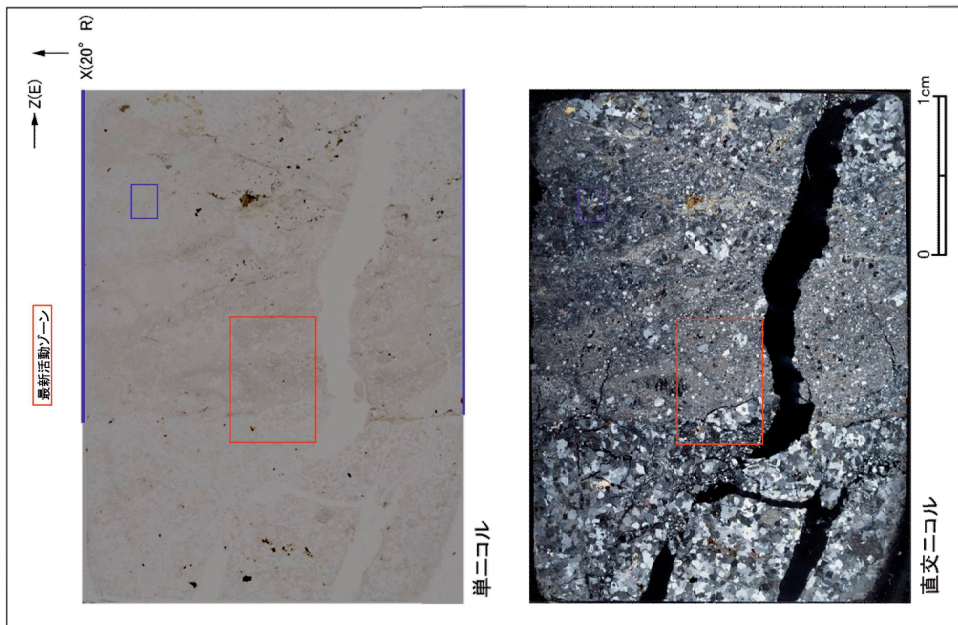
薄片作製位置写真



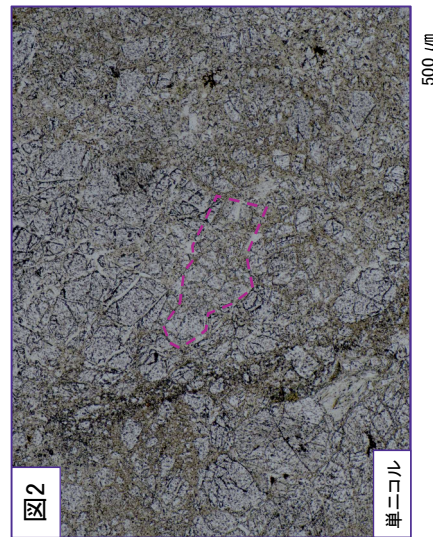
薄片全景写真(単ニコル)



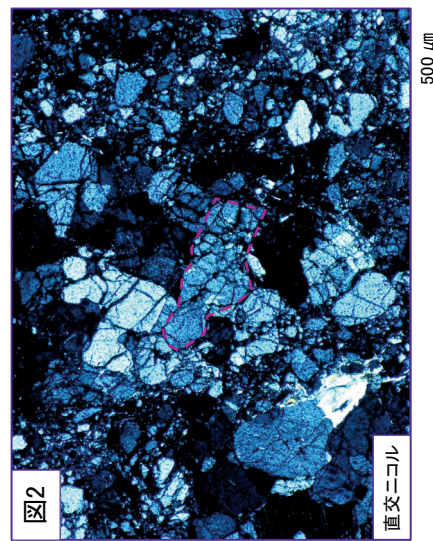
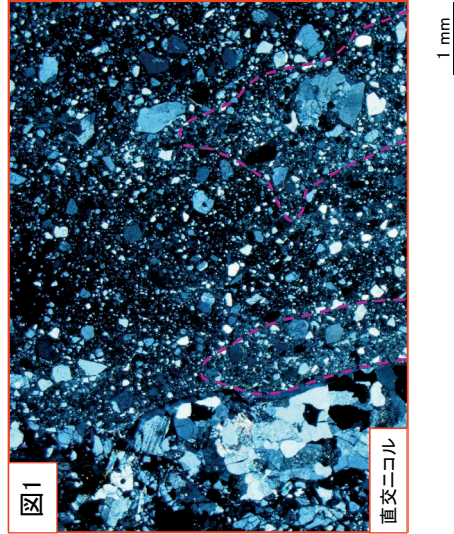
- ・最新活動ゾーンには、以下の特徴が認められる。
 - 基質を構成する粘土鉱物は少ない。(図1)
 - 断層面に沿った粘土状部は連続しない。(図1)
 - 断層面に沿った粘土状部の分布は局所的である。(図1)
 - 岩片は多い。(図1)
 - 角ばった岩片が多い。(図1, 2)
 - ジグソー状の角礫群が認められる。(図2)



破線は粘土状部の分布範囲を示す



破線はジグソー状の角礫群を示す



(肉眼観察結果 深度86.21m)

- 深度86.18～86.21mの「明赤灰色粘土状」と記載の箇所については、軟質で、細粒部の連続性及び直線性が良く、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織も認められない。これらのことから断層ガウジであると判断した。

(観察位置)

- 薄片試料は、肉眼観察により認定した断層面 α に沿って最も細粒化した部分を含み、人為的な試料の乱れの無い部分で作製した。

※断層面 α は最新活動面

(薄片観察結果)

- 薄片観察では、以下の通り断層ガウジの特徴が認められなかった。
 - 基質を構成する粘土鉱物は少ない。
 - 断層面に沿った粘土状部は連続しない。
- 薄片観察では、以下の通りカタクレーサイトの特徴が認められた。
 - 断層面に沿った粘土状部の分布は局所的である。
 - 角ばった岩片が多い。
 - ジグソー状の角礫群が認められる。

以上より、薄片観察結果では、最新活動ゾーンの細粒部をカタクレーサイトであると判断した。



(総合評価)

当該破砕部については、以下の理由から変質したカタクレーサイトであると評価した。

- 肉眼観察で確認された「明赤灰色粘土状」と記載の箇所については、その特徴から断層ガウジであると判断した。
 - 薄片観察で確認された最新活動ゾーンの細粒部は、その特徴からカタクレーサイトであると判断した。
- 肉眼観察で断層ガウジと認定した「明赤灰色粘土状」と記載の箇所については、薄片観察では岩片主体の基質で構成されている。このため最新活動ゾーンの細粒部は変質したカタクレーサイトと評価した。

断層ガウジ・断層角礫の有無	断層ガウジ・断層角礫の幅[cm] *	明瞭なせん断構造・変形構造 *
無	— (0.8)	— (無)

* :断層岩区分の総合評価で断層ガウジ・断層角礫の有無が「有」の場合は肉眼観察結果を記載。
断層岩区分の総合評価で断層ガウジ・断層角礫の有無が「無」の場合は「—」と記載して括弧内に肉眼観察結果を記載。

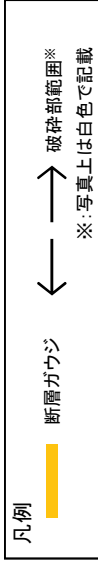
・深度88.30～88.40mの「粘土・砂質角礫状」と記載の箇所については、やや軟質であるが、含まれる細粒部は網目状に分布し、連続性及び直線性に乏しく、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織も認められる。これらのことから変質したカタクレーサイトであると判断した。

・一方、下端の深度88.40mの「灰白色粘土」と記載の箇所については、粘土は軟質で、連続性及び直線性が良く、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織も認められない。これらのことから断層ガウジであると判断した。

ボーリング柱状図

●88.30～88.40m：破碎部
粘土・砂質角礫状部(Hb)。上端22cmで幅1～2mmの灰白色粘土を挟むが、粘土は不連続。下端57cmで直線的。幅1mmの軟質な灰白色粘土(Hc-1)を挟む。全体に灰白色粘土が網目状に分布し、原岩組織が残る。やや軟質。灰白色を呈する。

コア写真



灰白色粘土が網目状に分布する
連続性・直線性が良い灰白色粘土



青粒部拡大